



毎月十五日発行  
所大社  
発行 宗像  
福岡県宗像郡玄海町  
〒811-35 電話 0940-62-1311代  
定価 一年送料共 1000円

神具・装束  
結婚式場用品  
株式会社 井 筒  
福岡市博多区東公園二丁目二番802  
電話 福岡(五)五六一九四五六番  
本店 京都市下京区浦小路六条北入(宇60)  
電話 京都(三)三三三三三三三番  
電話 京都(三)三三三三三三三番

第二十回 宗像大社

小倉百人一首かるた大会

西剛志四段 最高優勝に輝く



令吉選手と鹿兒島県かるた協会西剛志(四段)選手の戦いとなった。会場の儀式殿は一人の白熱した試合熱気で観客の手を汗にさせる。西剛志選手が優勝トロフィーを手にした。永世クイーン渡辺令吉選手を下した西選手に登壇委員から祝福の拍手が送られた。全ての熱戦が終了した午後五時、拜殿に於て表彰式と閉会式が行われた。原田会長より授与され、賞状賞品を受ける各ハートの優勝者、それを祝う参加者、共に喜びと次回の熱戦を約束する熱い力が早くも会場に広がっていた。

各級・各部の成績表

△A級(四段以上)

優勝 西 剛志 鹿兒島県かるた協会

二位 渡辺 令吉 横濱隼

三位 中島 聖一 九州かるた協会

三位 横溝 祐司 鹿島かるた協会

△B級(三・二段)

優勝 松水加奈子 熊本県かるた協会

二位 馬場美穂子 九州かるた協会

三位 伏見 珠美 奈良県

第二十回を記念する宗像大社奉納小倉百人一首大会は、若葉薫る六月九日、十六日の二日間、巨匠戦をくりひろげた。三十一文字を綴る和歌は、万葉集・勅撰和歌集を始め、幾百幾千とある。この中より京極の中納言・小倉黄門と称えられた藤原定家が撰び定めた百人一首を、小倉百人一首と呼ぶ。この歌かるたを、並べて遊ぶ風習は平安の世から昭和、平成に至るまで継がれている。昭和五十一年当神社昭和六十二年、大御造忌部宗行として第一回を開催した。我が国の

伝統文化維持と青少年の情操教育の一環として神賑行事に加えられたのである。毎年の参加者増加に合わせ、今年もより全国的にも愛好者間に有名な大会となっている。平成六年の第十八回では優勝、A-II四段以上北野嘉文氏、奈良県かるた協会、平成七年は優勝渡辺令吉氏(横濱隼)と全国的である。今年も第二十回大会あって、十六日のA級戦は特に伯仲した。四段以上の高段者二十名で実力を競い合っ決勝戦は昨年の優勝者渡辺

△C級(初級)

優勝 中尾 道子 熊本県

二位 貞 一行 京都府

三位 沼口 稔 天分県

三位 藤木 淳 九州かるた協会

△D級(二ハート)

優勝 衛藤 千穂 九州大学

二位 森本 裕子 筑紫女学園中学校

三位 森山 智子 宇美若

三位 藤山 沙織 宇美若

△E級以下は、主会場「清明殿」建て替え工事中の為に中止となった。

清明殿が改築された来年度は広く美しい新装上ではなる熱戦が展開される事であろう。

この第二十回記念大会に出席された全国代表者は左記の通りです。

・全日本かるた協会 指導部副部長 渡辺 雅大

・全日本かるた協会 審査部副部長 北野 嘉文

・永世クイーン 渡辺 令吉

・九州かるた協会 会長 原田敬太郎

・西日本かるた協会 山下 義

玄海町海開き

いよいよ海水浴シーズンを迎える季節に備え、七月四日、玄海町神楽海岸にて、恒例の玄海町海開き水神祭が斎行された。

当日はあいにくの雨模様の大候となったものの、祭典が始まる午前十一時頃には雨も上がり、祭典は無事斎行された。

海岸に設けられた祭壇前には海川山野の神様が供えられ、当社神職三奉仕のもと、和由海町町長、権田玄海町議会議長、玄海町観光協会小林会長、旅館組合、宗像警察署長、消防関係者、約百五十名余りが参列し、期間中の海水浴客の無事故無災害を祈念した。

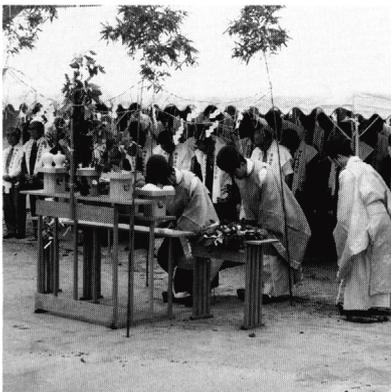
海開き終了後、玄海町は年間たくさん観光客を迎え、新鮮な海の幸を賞味して頂いており、その魚の供養をと、鯛の放流が行われ、祭壇横の岩場で神職のお祓いの後、参列者に

よって、次々と魚が放流され玄界灘へと泳ぎ出いった。

一方、神湊、江口、鐘崎勝浦それぞれ海浴場を神酒にて神職が清浄に祓清め、夏の海水浴シーズンにあたっての神事を滞りなく終了した。

祭典終了後、神湊の魚屋旅館で直会が催され関係者一同今年の夏も、多くの観光客、海水浴客が訪れるのを大いに期待しつつ、和やかな楽しいひと時を過ごした。

最近ではいろいろなマリンスポーツが盛んになり海での事故も増加の一途をたどっている。夏は開放的になり易く、つい油断をしてしまふ。ルールを守り楽しく遊んで頂く様祈りたい。



暑中御見舞申し上げます



出光

SI 出光興産株式会社

取締役 宮下佳廣  
福岡支店長

福岡市中央区大名2丁目8番26号  
TEL 092-761-1831



九州男児の心意気を示す山笠行事を季節を迎えた。山笠といえは博多山笠があまりにも有名人が、玄海町

### 夏を彩る山笠行事

#### 勢い水を浴びて 勇壮に駆け巡る

九州男児の心意気を示す山笠行事を季節を迎えた。山笠といえは博多山笠があまりにも有名人が、玄海町



段天区の両区で七日一日までの二週間行われ、二日午前十一時、先ず上山笠の清祓を齎し、人形が飾りつけられた見事な山笠と子供山笠の正面に、水島区長以下大人か子供供まで参列、地元住民の災難消除と山笠期間の無事故が祈念された。山笠祓に引き続き、同様に鎮座する須賀神社の神前で祓園祭を執行し、疫病退散、無病息災を祈念した。

正午からは段天山笠の清祓を齎し、榎木区長以下多数の参加者が参列する中、大人山笠、子供山笠を祓清め、上中区同様災難消除と無事故が祈念された。

昭和二十一年十一月三日に公布されたマッカーサー憲法の中に「よく忍び込んで今でも時々現れては禍をなす。その亡國憲法も今年が本文公布の来年が施行の五十周年である。本年の五月三日は東京裁判開廷の五十周年だが、この事件を回顧する記事はジャーナリズムには現れなかった。それが、恥辱と積怨の記憶を今更にたぐり立てるまでもない、といった心性の然らざる所だとすれば、同情に値するがそれは間違ひだ、と声を大にして警告すべきところであるが、おそろくさくさではなれて単なる無関心と忘却の結果であらう。二年半にわたる裁判の結審と判決、その結果としての所謂東京裁判親の學界と言論界への定着といふ凶事は再来年が五十周年である。その時までは、昨年実現し得た東京裁判未公開資料の出版といふ成果を上台ともし武器として、日本を戦争犯罪国家呼ばれしめて恥ぢない一派に向けての思想戦を更に強力に推進しておきたいと念ずるのだが、今はただ「非力な託こばかりである。」

浦安舞を受講して 巫女代表

去る六月三十日から三日間に亘り、春秋の大祭を始め月次祭など各祭典で巫女舞として奉納される「浦安の舞」を、全国神社音楽協会会長多摩先生をお迎えして御指導頂きました。二年目の巫女を中心として、新人巫女も交え舞踊と鈴舞の温習を受けさせて頂きました。一年振りに先生の目の前

と自体も嫌になりませんでした。しかし、先生からは舞の作法だけでなく御神前で舞わせて頂く事の喜びやありがたさ、巫女としての責任感、心構えなど舞がどれ程大切なことかをお話し頂き奉仕させて頂く事ばらしさを感銘させて頂きました。最終日には四人舞の御指導まで受ける事ができました。三日間という短い間でしたが今でしかできない大変貴重な体験をさせて頂きました。これからも今回の御教示を忘れず、御神前で少しでも立派な舞を奉納できるように日々練習に励みます。最後に御指導頂いた多先生に厚く御礼を申し上げますと共に深く感謝を申し上げます。 まことにありがとうございます。

昭和二十一年十一月三日に公布されたマッカーサー憲法の中に「よく忍び込んで今でも時々現れては禍をなす。その亡國憲法も今年が本文公布の来年が施行の五十周年である。本年の五月三日は東京裁判開廷の五十周年だが、この事件を回顧する記事はジャーナリズムには現れなかった。それが、恥辱と積怨の記憶を今更にたぐり立てるまでもない、といった心性の然らざる所だとすれば、同情に値するがそれは間違ひだ、と声を大にして警告すべきところであるが、おそろくさくさではなれて単なる無関心と忘却の結果であらう。二年半にわたる裁判の結審と判決、その結果としての所謂東京裁判親の學界と言論界への定着といふ凶事は再来年が五十周年である。その時までは、昨年実現し得た東京裁判未公開資料の出版といふ成果を上台ともし武器として、日本を戦争犯罪国家呼ばれしめて恥ぢない一派に向けての思想戦を更に強力に推進しておきたいと念ずるのだが、今はただ「非力な託こばかりである。」

と自己も嫌になりませんでした。しかし、先生からは舞の作法だけでなく御神前で舞わせて頂く事の喜びやありがたさ、巫女としての責任感、心構えなど舞がどれ程大切なことかをお話し頂き奉仕させて頂く事ばらしさを感銘させて頂きました。最終日には四人舞の御指導まで受ける事ができました。三日間という短い間でしたが今でしかできない大変貴重な体験をさせて頂きました。これからも今回の御教示を忘れず、御神前で少しでも立派な舞を奉納できるように日々練習に励みます。最後に御指導頂いた多先生に厚く御礼を申し上げますと共に深く感謝を申し上げます。 まことにありがとうございます。

平成七年を「終戦五十周年」の記念の年と捉へるの不適切、といふよりも誤謬を、筆者は既に度々口にも筆にも書せてきた。今又その主張を繰り返す気はないが、この認識を強調した理由だけはもう一度述べておきたい。それは「昭和二十年八月十五日(もしくは九月一日)終戦の有りさまは、昭和二十七年四月二十八日の平和条約発効の日が、国際法上不承認の、即ち真正の終戦記念日であるといふ重要な史実を蔽ひ隠してしまふからだ、といふこともあるが、それよりもむしろ、二十年九月に始まる六年余の占領期間中に占領軍の司令によって強行された数々の破壊的変革の政策実践を、日本国民自身「戦後政策」とであると誤認せしめる間連ひのもとだからである。それらの改革は我が国の「戦後政治」の初期の施策であったと認められるべきものでなく、明らかに米軍による「占領政策」の各項目だったのであり、その実体を言へば、日本国を国体の根柢から破壊し、欧米白人諸国の競争相手としては「歴史的国際社会に登場できないやうに弱体化」してしまふための、砲彈

と爆撃ならぬ政治力を以てしての追撃戦であり、つまり戦争の続行だった。戦時での日本国政府が占領政策に對してありのままに従順であり、往々にして迎合的であつたが故に、それは今日から顧みて日本国の目的選択による方向転換であつたか如くに映るのだが、この見方は明らかに錯覚である。運きに過ぎるとはいへ、訂正すべきとは今からでも訂正しなくてはならない。

「五十周年」のさまざまな姿

まづ我々の足下を振り返ってみるならば、本年は神社本庁発足五十周年の記念年である。この半世紀の神社界の着実な発展と現在の清栄を前に、筆者として素直に慶祝の意を表するのには吝かではない。しかし、かかる組織の成立の淵源に二十年暮の神道指令があったことを思へば、少し複雑な感慨が湧いてこようといふ少いのである。神道指令は平和条約の発効・国家主権の回復を以て失効した「占領行政」の一項にすぎないのではあつたが、その亡霊は

昭和二十一年十一月三日に公布されたマッカーサー憲法の中に「よく忍び込んで今でも時々現れては禍をなす。その亡國憲法も今年が本文公布の来年が施行の五十周年である。本年の五月三日は東京裁判開廷の五十周年だが、この事件を回顧する記事はジャーナリズムには現れなかった。それが、恥辱と積怨の記憶を今更にたぐり立てるまでもない、といった心性の然らざる所だとすれば、同情に値するがそれは間違ひだ、と声を大にして警告すべきところであるが、おそろくさくさではなれて単なる無関心と忘却の結果であらう。二年半にわたる裁判の結審と判決、その結果としての所謂東京裁判親の學界と言論界への定着といふ凶事は再来年が五十周年である。その時までは、昨年実現し得た東京裁判未公開資料の出版といふ成果を上台ともし武器として、日本を戦争犯罪国家呼ばれしめて恥ぢない一派に向けての思想戦を更に強力に推進しておきたいと念ずるのだが、今はただ「非力な託こばかりである。」

暑中御見舞申し上げます

|                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 自由ヶ丘支店             | 支店長 江上孝一        |
| 支店長 宗像市自由ヶ丘二丁目七七一  | TEL 〇九四〇一三三一五一一 |
| 日の里支店              | 支店長 中牟田喜彦       |
| 支店長 宗像市日の里一丁目二一〇四一 | TEL 〇九四〇一三六一二八八 |
| 福岡支店               | 支店長 渡辺弘機        |
| 支店長 福岡町大和町二七三八一〇   | TEL 〇九四〇一四二一一三  |
| 赤間支店               | 支店長 西川治         |
| 支店長 宗像市大字土穴三九七一九   | TEL 〇九四〇一三三一五五六 |
| 日の里支店              | 支店長 原田栄治        |
| 支店長 宗像市日の里一丁目二九一八  | TEL 〇九四〇一三六一六七  |
| 赤間支店               | 支店長 佐藤政義        |
| 支店長 宗像市大字土穴二〇一一二   | TEL 〇九四〇一三三一三四  |

福岡シティ銀行

|                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 自由ヶ丘支店             | 支店長 江上孝一        |
| 支店長 宗像市自由ヶ丘二丁目七七一  | TEL 〇九四〇一三三一五一一 |
| 日の里支店              | 支店長 中牟田喜彦       |
| 支店長 宗像市日の里一丁目二一〇四一 | TEL 〇九四〇一三六一二八八 |
| 福岡支店               | 支店長 渡辺弘機        |
| 支店長 福岡町大和町二七三八一〇   | TEL 〇九四〇一四二一一三  |
| 赤間支店               | 支店長 西川治         |
| 支店長 宗像市大字土穴三九七一九   | TEL 〇九四〇一三三一五五六 |
| 日の里支店              | 支店長 原田栄治        |
| 支店長 宗像市日の里一丁目二九一八  | TEL 〇九四〇一三六一六七  |
| 赤間支店               | 支店長 佐藤政義        |
| 支店長 宗像市大字土穴二〇一一二   | TEL 〇九四〇一三三一三四  |



宗像大社歌会  
俳句作品集 四〇〇

福間 森 清  
寄り添ひし鴉の愛や青田風

津屋崎 井浦 良介  
梅雨の晴間一ツのボール奪  
い合う

日里 花田いつ枝  
水垂れて畦へ田植機這ひ上  
る

自由ヶ丘 細川 絹子  
紫蘇もみて手を染む色に母  
しのぶ

福岡中央 山下しづえ  
ナスキウリお笑種にお裾分

東郷 吉武 湧泉  
大千湯レンズに追へる渡り  
鳥

東郷 中野 きみ  
青麩をひてこよなき住家な  
る

東郷 吉田 鈴子  
万緑や養錢箱に鍵の無き

東郷 吉田 杏子  
吾が命あるよろこびや青田  
風

東郷 三浦三千代  
瀬戸の海蘭に五つの鯖火燃  
ゆ

東郷 有吉亜紀子  
ビルの灯の青田に映る新興  
地

東郷 田中 雨葉  
滴の一滴絶えぬ奥の院

東郷 木原 房子  
負動はらひて供華の紫半折  
る

藤沢 井上 玄洋  
愛人の瞳に光る麦茶かな

福岡 二宮 末子  
おとなりの庭もキリシマ花  
盛

(続)  
浜の寄物

108

いししいただし

この企画は、海の日を記  
念して、全長十一・二メー  
トルのクルージング型ヨッ  
ト(船名・うみまる)で、  
ぐるっと日本一周をしなが  
ら海を視点を置き「日本の  
自然」と「日本の海」を見  
直してみようというものだ  
である。

うみまるのスキッパーを  
務めるのはキャンペーンの  
发起人であり、二度のアメ  
リカカップにも参加した南  
波誠氏、メンバーは添畑薫  
氏、日高茂樹氏等十四名を代  
表する名クルーズ日本代表  
である。日本列島、千数カ所  
の寄港地で、それぞれゲスト  
トを迎えて航海していくも  
のである。

スタートは五月十一日横  
浜を出港し、太平洋岸を北  
上、最初の寄港地は九州へ、  
山陰を走り、本本沿岸から  
九州へ、日本の南端  
沖繩へ、そこから太平  
洋、瀬戸内海に入り、  
再び太平洋  
側へ出て、



上、最初の寄港地は九州へ、山陰を走り、本本沿岸から九州へ、日本の南端沖繩へ、そこから太平洋、瀬戸内海に入り、再び太平洋側へ出て、

この企画は、海の日を記  
念して、全長十一・二メー  
トルのクルージング型ヨッ  
ト(船名・うみまる)で、  
ぐるっと日本一周をしなが  
ら海を視点を置き「日本の  
自然」と「日本の海」を見  
直してみようというものだ  
である。

うみまるのスキッパーを  
務めるのはキャンペーンの  
发起人であり、二度のアメ  
リカカップにも参加した南  
波誠氏、メンバーは添畑薫  
氏、日高茂樹氏等十四名を代  
表する名クルーズ日本代表  
である。日本列島、千数カ所  
の寄港地で、それぞれゲスト  
トを迎えて航海していくも  
のである。

スタートは五月十一日横  
浜を出港し、太平洋岸を北  
上、最初の寄港地は九州へ、  
山陰を走り、本本沿岸から  
九州へ、日本の南端  
沖繩へ、そこから太平  
洋、瀬戸内海に入り、  
再び太平洋  
側へ出て、

七月十九日横浜へと帰港す  
る。

総距離約四千マイル(約  
七千四百八キロメートル)  
走る。明確なテーマのもと  
にヨットで日本一周をする  
という試みは、日本初のキャ  
ンペーンといえる。

このキャンペーンの主旨  
と目的であるが、企画書に  
は次のようにある。

「近年、私たちの暮らし  
と海の関わりは日に日に  
変化しつつあります。日本  
人の生活に欠かす事のでき  
ない海は、働く海の世界か  
ら遊びの世界へと新しく  
い広がりをもち、そしてま  
た海洋汚染などのさまざまな  
な問題も発生しています。

海に對してもっとやさしく  
していかなくては行けない  
時期に来ているのではない  
かと思えます。

私たちは、この「海から  
見よう!日本」キャンペー  
ンにおいて、いつもは陸側  
から見ている日本を、視点  
を外へ移して、じっくりと  
沖繩へ、そこから太平  
洋、瀬戸内海に入り、  
再び太平洋  
側へ出て、

これは現在も残っている四冊  
にめぐらされた堀で、そこ  
に架かっている石橋を渡る  
と鳥居があり、その前後に、  
それぞれ一対の燈籠が道を  
挟んで立ち、すぐ広い「神  
池」が広がった中ノ鳥がある。  
この中ノ鳥には藤棚があり、  
三対の灯籠がある。

中鳥から橋を渡って鳥居  
をくぐると拝殿前の参道を  
はさんで神楽堂、能楽堂が  
ある。拝殿の右側には一切  
経堂、鐘楼、神庫、阿弥陀  
経堂、重所等の建物がある。  
中世、宗像宮司が領主と  
祭主を兼帯して、祭祀を行っ  
ていた当時の隆盛な面影は  
想像すべくもないが、簡素

宗像むかしばなし

宗像宮略記と青柳種信

当宗像大社の由緒を記し  
たものの一つに「宗像宮略  
記」がある。これは筑前の  
国學者、青柳種信が記述し  
たものであるが、「宗像宮  
略記」が書かれたいきさつ  
を記した種信の手記が残っ  
ている。

養命を尊けて、伊能忠敬  
が日本地図を作成すべく全  
国各地を測量し、筑前の地  
に入ったのは文化九年(一  
八二二)夏の盛りのことで

あつた。

伊能忠敬は助役、手付、  
内弟等をひきつれて測量  
を開始したが種信は黒田藩  
よその案内役を命ぜられ  
ている。

文化九年七月、小倉の境  
界から測量を始め、八月怡  
土の境界を終るまで種  
信は給伊能忠敬に同行し  
ていた。七月下旬、筑前領  
内の海岸線を測量しながら  
神楽の小さな旅館「魚屋」

上り舟にのり、この間に田島  
村の宗像神社に参拝してい  
る。

忠敬は宗像神社の簡素な  
たたずまいに感激し、その  
由来書を希望した。この忠  
敬の求めに応じて、由来書  
を提出するようとの命令  
が早便で種信に達せられた。  
種信は早速宗像神社の由緒  
を認めて黒田藩差出した。  
藩の家老の検閲を怠り、こ  
ろ差支ないから忠敬に差  
し出すようにとのことであつ  
た。種信は下座郡桑原村で  
忠敬に件の由来書を渡して  
いる。忠敬は大いに喜び、  
諸国を廻っているが、貴殿  
のように国学に達した人  
には未だ逢ったことがない帰  
府の上老中にも言上しよ  
うと述べている。

さて、当時の宗像神社の  
景観を窺うに足るものとし  
て、筑前国経國日記録所  
載の宗像早稲園がある。  
これは今から百五十年前、  
即ち伊能忠敬が参拝した当  
時に書かれた辺津宮および  
その鳥居を築いたものである。  
これによれば、先ず手前  
に溝川が横流しており、こ

暑中御見舞申し上げます

玄海国定公園の中心…白砂青松の海水浴場…宗像大社からバス5分…神湊旅館組合

市外局番 (0940)

|                        |                        |                        |                        |                           |                                 |                       |                       |                      |                          |                       |                            |                              |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|--------------------------|-----------------------|----------------------------|------------------------------|
| 魚屋旅館<br>電話 〇九四〇一六一二二二番 | みなと荘<br>電話 〇九四〇一六一二二五番 | 玄海旅館<br>電話 〇九四〇一六一〇〇一番 | 高嘉旅館<br>電話 〇九四〇一六一二二二番 | ニュー千鳥荘<br>電話 〇九四〇一六一〇〇六八番 | リゾートホテル ユー倶楽部<br>電話 〇九四〇一六一三三六番 | 松風荘<br>電話 〇九四〇一六一二二〇番 | 泉館<br>電話 〇九四〇一六一〇〇三五番 | 魚庄<br>電話 〇九四〇一六一三三五番 | 川口屋旅館<br>電話 〇九四〇一六一〇〇四八番 | はま荘<br>電話 〇九四〇一六一〇五〇番 | 神湊スカイホテル<br>電話 〇九四〇一六一三三〇番 | 玄海ロイヤルホテル<br>電話 〇九四〇一六一二四二一代 |
|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|--------------------------|-----------------------|----------------------------|------------------------------|

